



多価値相克状況における合意形成のための 動的参照モデル調査研究会中間報告

遠藤 薫*

Interim Report of the Study Group on a Dynamic Reference Model for Consensus Building in Multi-Value Conflict Situations

Kaoru ENDO*

新型コロナ・パンデミックとそれへの対応は、地球規模でのシステムから個人レベルでの行動までの変容を驚異的な速度で引き起こした。このため、監視による社会秩序優先かと個人の自由優先か、経済か防疫か、平等か功利性か、オンサイトかオンラインか、といった様々な相克を表出化させた。

本企画調査の目標は、急速な社会変容が予期されるウィズコロナ時代における社会と個人の意思決定や事業計画に必要な新たな理論的枠組みを構築することである。さらに、この枠組みをアーキテクチャ化することで、ウィズコロナで顕在化する多様な社会価値を弱者にとっても著しく褒貶することなく実現する倫理度指標や持続度指標の高い公共事業・産業ソリューションならびに複合災害時リスク対応に繋がる実装研究をめざしている。

この目標を達成するために「相克する多様な価値の関係性を可視化可能な指標群の設計」「多様な指標に基づくコロナ・パンデミック後社会の実態把握」「ウィズコロナの諸問題解決案を導く合意形成や配慮すべき社会倫理が参照すべきモデル、すなわちコロナ世界観の提示」の3項目について検討を進めている。多様性、倫理性を含む公共性、持続可能性、レジリエンスといった概念を妥当性・信頼性をもって測定する指標開発は、今般のわが国のパンデミック対応に必要な多面的価値評価を可能にすることはもちろん、ELSIに係る社会変容(Transformation)の多価値モデル表現を可能にすることが期待できる。

本研究会は2020年9月に発足した。

メンバーは以下の通りである。

主査	遠藤 薫	(学習院大学, 元副会長, 社会情報学会)
副主査	椿 広計	(統計数理研究所, 副会長, 日本品質管理学会)
委員	板倉 宏昭	(東京都立産業技術大学院大学, 理事, 日本経営システム学会)
委員	木野 泰伸	(筑波大学, 理事, 日本品質管理学会)
委員	倉橋 節也	(筑波大学, 理事, 計測自動制御学会)
委員	竹村 和久	(早稲田大学, 行動経済学会)
委員	高橋 泰城	(北海道大学, 行動経済学会)
委員	田名部元成	(横浜国立大学, 経営情報学会, 日本シミュレーション&ゲーミング学会)
委員	椿 美智子	(東京理科大学, 研究・イノベーション学会)
委員	出口光一郎	(東北大学, 監事・元会長, 計測自動制御学会)
委員	永原 正章	(北九州市立大学 (現在は広島大学), 計測自動制御学会)
委員	船橋 誠壽	(計測自動制御学会)
委員	本多 敏	(慶應義塾大学, 理事, 計測自動制御学会)
委員	松井 知子	(統計数理研究所, 日本統計学会)
委員	山本修一郎	(名古屋国際工科専門職大学, 日本MOT学会)

コロナ・パンデミックが社会を覆っており、オンサイトでの研究会の開催が難しい状況であったものの、第11回横幹コンファレンスでは「ポストコロナ未来社会と横幹知」、第12回横幹コンファレンスでは「ポストコロナ社会におけるコミュニティ資本形成と横幹知」、第13回横幹コンファレンスでは「横幹知とELSI」、第14回横幹コンファレンスでは「多様な価値の背反と横幹知」というテーマのもと、企画セッションを開催した。講演内容は下記の通りである。

*学習院大学名誉教授

*Honorary Professor at Gakushuin University

Received: 30 January 2024.

第11回横幹コンファレンス

	講演タイトル	講演者	所属
1	ポストコロナ未来社会とSDGs/社会倫理	遠藤 薫	学習院大学
2	ポストコロナ未来社会と行動経済学 I	高橋泰城	北海道大学
3	ポストコロナ未来社会と意思決定	竹村和久	早稲田大学
4	ポストコロナ未来社会と社会シミュレーション	倉橋節也	筑波大学
5	ポストコロナ未来社会に向けたシステム制御の役割	永原正章	北九州市立大学
6	ポストコロナ未来社会とデータサイエンス	松井知子	統計数理研究所

第12回横幹コンファレンス

	講演タイトル	講演者	所属
1	ポストコロナ社会におけるコミュニティ資本形成と横幹知	遠藤 薫	学習院大学
2	ポストコロナ社会における環境と経済の両立	板倉宏昭	東京都立産業技術大学院大学
3	ポストコロナ社会における超スマート社会とコミュニティ資本	永原正章	北九州市立大学
4	ポストコロナ社会におけるコミュニティのシミュレーション	倉橋節也	筑波大学
5	ポストコロナ社会と社会的孤立	椿 広計	統計数理研究所

第13回横幹コンファレンス

	講演タイトル	講演者	所属
1	横幹知とELSI	遠藤 薫	学習院大学
2	データサイエンスとELSI	椿 広計	統計数理研究所
3	AIとELSI	松井知子	統計数理研究所
4	シミュレーションとELSI	倉橋節也	筑波大学
5	意思決定とシミュレーション	竹村和久	早稲田大学
6	ブロックチェーンとELSI	板倉宏昭	東京都立産業技術大学院大学

第14回横幹コンファレンス

	講演タイトル	講演者	所属
1	多様な価値の背反と横幹知	遠藤 薫	学習院大学名誉教授
2	消費者危険と生産者危険の相克にどう向き合えるのか?~HPVワクチン副反応に関する訴訟を例として~	椿 広計	統計数理研究所
3	他者の視点をどうしたら取得できるかー心理実験による日常儀礼の効果の検討	竹村和久	早稲田大学
4	地域ビジネスの経営学的分析と戦略展開: 地域資源の最大活用を目指して	板倉宏昭	東京都立産業技術大学院大学
5	多視点ゲームが導く多様性と合意形成のジレンマ	倉橋節也	筑波大学
6	ビッグデータと機械学習で読み解く省エネルギーの意識と行動	永原正章	広島大学大学院

パンデミックは落ち着きを見せ始めたものの、2022年2月に始まったウクライナ侵攻、2024年10月に始まったガザ戦争などは、いまだ終結の兆しが見えない。さらに、2023年夏には国連のグテーレス事務総長が会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と語るなど気候変動は危機的状況にあり、日本では2024年元旦に能登地方を大きな地震が襲った。こうした中、先進国を中心に少子高齢化が進み、しかも、個人の孤立化が危惧されている。

これらのいずれの局面においても、背反する価値観の相剋が、合意形成や問題解決に大きな障害になっている。今後は、すでに検討してきた問題を統括しつつ、横幹知を活かした提言へとつなげていきたいと考えている。